

奈良県御所市で採集されたコクチバス

森下 來美*・羽多 宏彰**・高栢 真也**・小西 雅樹**・細谷 和海**

*近畿大学大学院農学研究科環境管理学専攻

**近畿大学農学部環境管理学科

Smallmouth bass collected from a pond, Gose City, Nara Prefecture

Kurumi MORISHITA*, Hiroaki HATA**, Shinya TAKAMATSU**,
Masaki KONISHI** and Kazumi HOSOYA* **

* Program in Environmental Management, Graduate School of Agriculture, 3327-204 Nakamachi, Nara 631-8505, Japan

** Department of Environmental Management, Faculty of Agriculture, Kindai University, 3327-204 Nakamachi, Nara 631-8505, Japan

Synopsis

An unfamiliar bass, 21.8 cm SL was collected by lure fishing from a pond, Gose City, 2016. The bass was identified as Smallmouth bass, *Micropterus dolomieu dolomieu* Lacépède, 1802, by having radial stripes directing posteriorly on post-ocular portion, a small gape, and connection between spinous and soft rayed portions in dorsal fin. Generally, the bass becomes an invasive alien fish in the eastern Japanese waters, while its catchment this time, is the first official record from Nara Prefecture and the first from the Yamato river system as well.

Keywords: alien invasive species, lure fishing, *Micropterus dolomieu dolomieu*, the Yamato river system

1. 背景

コクチバス *Micropterus dolomieu dolomieu* Lacépède, 1802 はサンフィッシュ科 Centrarchidae に分類される極めて強い魚食性をもつ北米原産の淡水魚である。現在、我が国ではオオクチバス *M. salmoides* と同じく釣りの対象種として人気がある。本種は1925年、神奈川県芦ノ湖にオオクチバスとともに移殖されたが定着しなかった。その後、1991年に長野県野尻湖で初めて確認されて以来、さまざまな河川や湖に拡散し始めている(淀・井口, 2003b; 外来魚影響・対策研究会, 2011)。そのため、2005年6月に施行された「特定外来生

物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(平成16年法律第78号)」に基づいて特定外来生物に指定され、無許可での飼育や運搬が禁止された。本種はオオクチバスに比べて冷水環境や流水環境を好むため、コクチバスが侵入することにより、これまで肉食性外来魚の影響を受けてこなかった流水環境のさまざまな在来水生生物に、甚大な影響が及ぼすことが危惧される(淀, 2002; 淀・井口, 2004a)。

これまで、本種は主に東北地方や長野県など比較的寒冷地のみで確認されていたが(淀・井口, 2003a; 淀・井口, 2004b; 片野, 2005)、1995年に琵琶湖で、2014年には淀川



Fig. 1. *Micropterus dolomieu dolomieu*, collected from a pond, Gose City, Nara Prefecture, KUN-P-45312, 21.8 cm SL. Left side of the body was slightly damaged.

水系木津川で本種の侵入が記録されるなど（小西・川瀬, 2014）、西日本での報告も増加している。さらに今回、大和川水系でコクチバスと考えられる個体が奈良県内にて採捕された。そこで詳細に同定を行ない、本報において記録する。

2. 材料および方法

対象となった魚は奈良県御所市のため池で釣獲された個体である。測定後、本報告で用いた個体については近畿大学登録標本（KUN-P-45312）に登録、保管した。

採集地

奈良県御所市内は、県内の西中部に位置し、奈良盆地の西南端を占め、市内を流れる河川はすべて大和川水系に属する。詳細なため池の位置情報については、特定外来生物拡散防止の観点から、本報告内では非公開とする。

形態計測

魚体の左体側を計測し、各項目の計測・計数は主に Hubbs and Laglar (2004) に従い、中坊 (2013) も参照した。計測方法についてはノギスを用いて行なった。計測項目は全長 (Total Length)、標準体長 (Standard Length)、頭長 (Head Length)、吻長 (Snout Length)、両眼間隔 (Interorbital Width)、眼径 (Eye

Diameter)、体高 (Body Depth)、体幅 (Body Width)、尾柄長 (Caudal Peduncle Length)、尾柄高 (Caudal Peduncle Depth)、背鰭前長 (Predorsal Length)、尻鰭前長 (Preanal fin Length)、腹鰭前長 (Prepelvic Length)、胸鰭長 (Pectoral-Fin Length)、上顎長 (Upper-jaw Length) の計 14 ヶ所、計数項目は背鰭条数 (Dorsal fin rays)、尻鰭条数 (Anal fin rays)、有孔側線鱗数 (Pored Lateral Line)、側線上方鱗数 (Scale Above Lateral Line)、側線下方鱗数 (Scale Below Lateral Line) の 5 ヶ所とした。

3. 結果

外部形態

生鮮時、体色はオリーブグリーン色を示し、体側に横帯が見られた。ホルマリン固定後の色彩は黒紫色を呈し、体の腹縁側は灰白色となった (Fig. 1)。

提供個体では、主上顎骨後端は目の後縁まで達せず、上顎長は体長の 13% であった。側線上横列鱗は細かく、その数は 12 であった (Table 1)。一般に、オオクチバスでは主上顎骨の後端が眼の後縁を超え、上顎長は体長の 16.1~19.7%、側線上横列鱗は比較的大きく、その数は 7~9 とされる (中坊, 2013)。

加えて、提供個体では、体側の斑紋が虎斑柄を呈し、第 1 背鰭と第 2 背鰭が連続し、背鰭および臀鰭の付け根まで鱗が見られた。

以上の特徴により提供個体はコクチバスに同定された。

Table 1 Counts and measurements of *Micropterus dolomieu dolomieu* for KUN-P-45312

Total Length	27.4	cm
Standard Length	21.8	cm
Head Length	7.3	cm
Snout Length	2.0	cm
Interorbital width	2.2	cm
Eye Diameter	1.1	cm
Body Depth	6.9	cm
Body Width	4.6	cm
Caudal Peduncle Length	5.3	cm
Caudal Peduncle Depth	3.0	cm
Predorsal Length	9.3	cm
Preanalfin Length	14.7	cm
Prepelvic Length	8.1	cm
Pectoral-Fin Length	3.4	cm
Dorsal fin rays	X+12	
Anal fin rays	III+7	
Pored Lateral Line	69	
Scale Above Lateral Line	12	
Scale Below Lateral Line	16	

4. 考察

御所市内で採集されたブラックバスはコクチバスであった。今回の提供個体は1個体のみであったが、同地点は過去にも複数個体捕獲され、2016年8月には4cm前後の小型個体も釣獲されており（採集者私信）、すでにコクチバスは池内で再生産・定着していると考えられる。また、今回の発見地点はため池という閉鎖水域であったが、今後大和川本流へ拡散した場合、本種の河川適応性や冷水耐性により大和川流域全体がコクチバスに脅かされる可能性があると考えられる。

5. 謝辞

本報告にあたり、株式会社 TSJ の仲村篤志氏に供試魚と情報を提供いただいた。近畿大学農学部水圏生態学研究室の北川忠生准教授および川瀬成吾博士からは、貴重なご意見を賜った。標本の撮影に際しては、近畿大学農学部水圏生態学研研究の森宗智彦博士にご協力をいただいた。ここに合わせて深く感謝の意を表す。

6. 引用文献

- 外来種影響・対策研究会 (2011) コクチバス。河川における外来種の考え方とその事例, pp. 96-107. リバーフロント整備センター, 東京.
- Hubbs, C. L., and Lagler, K. F. (2004) Fishes of the Great Lakes region. Revised Edition. University of Michigan press, Bloomfield Hills, xxxi+276 pp.
- 片野 修 (2005) 外来魚コクチバス問題の現状と対策. 日本水産学会誌, 71:399-401.
- 小西雅樹・川瀬成吾 (2014) 淀川水系木津川へのコクチバスの侵入. 魚類学雑誌, 61:46-48.
- 中坊徹次(編) 日本産魚類検索. 東海大学出版会, 秦野. pp. 821.
- 淀 太我 (2002) コクチバス～それでも放される第二のブラックバス. 外来種ハンドブック(日本生態学会編), 地人書館, 東京, pp. 118.
- 淀 太我・井口恵一郎 (2003a) 長野県青木湖と野尻湖におけるコクチバスの食性. 魚類学雑誌, 50:47-54.
- 淀 太我・井口恵一郎 (2003b) 外来種コクチバスの河川内繁殖の確認. 水産増殖, 51:31-34.
- 淀 太我・井口恵一郎 (2004a) 長野県農具川における外来魚コクチバスの食性. 水産増殖, 52:395-400.
- 淀 太我・井口恵一郎 (2004b) バス問題の経緯と背景. 水研センター研報, 12:10-24.